

KITA理事会開催

ニュース&レポート

海外での活動状況

フィリピン、インドネシア、ベトナム、タイ、韓国、ロシア、
中東(クウェイト、サウジアラビア、バーレーン、イラン)

最近6ヶ月に終了したKITA研修コース

帰国研修員を講師として招聘

JICA九州研修事業

KITA研修コースの紹介

KITAの国際親善交流

トピックス



中東向けジャパンプログラム(クウェートでの会議)

KITAの平成18年度理事会開催

KITAの平成18年度理事会が6月23日(金)に開催されました。

河野理事長の挨拶の後、「平成17年度事業並びに収支決算」を報告し承認されました。続いて「平成18年度事業計画並びに収支予算」の審議がなされ原案通り承認され、本年度の事業計画が決定しました。

河野理事長挨拶要旨

KITAは昨年、創立25周年を迎えました。1980年、わずか1コースで始まったODA/JICA委託研修は、昨年は29コースに増え、累計では、JICA以外の委託研修を含め、118カ国、4,117名の研修卒業生を数えるまでになり、国際技術協力の大きな柱となりました。

数ヶ月にわたる研修を通じて、研修員とコースリーダーや市民との間に生まれた信頼の絆が、強いネットワークとなって世界に広がっています。

一方、最近の新しい傾向として、ODA対象でない国から環境問題について技術協力を要請される例が増えはじめています。また北九州市は「世界の環境首都」を目指しており、KITAを技術協力の拠点と考えています。

私たちは、このような時代の変化、内外の要請に柔軟

かつ迅速に対応し、協力して行くことが大切であると考え、技術陣の強化を図ると共に、それに相応しい態勢、すなわち組織はフラットに、運用はフレキシブルにすることにいたしました。

KITAは、地域が保有するシニア・エンジニアの力をもって、国際協力を果たすことを基本としており、ボランティアの精神が活動の根底にあります。私たちはあらためてこのことを確認しつつ第2クォーターを踏み出したところであります。これからも持続可能な発展のために、産業開発と環境保全の調和のとれた国際技術協力にまい進する所存ですので、皆様方の今後ますますのご指導ご鞭撻を、よろしくご願ひいたします。

平成17年度事業報告

JICA研修

1) 平成17年度研修実施状況

昨年度に引き続き、北九州市に蓄積された、環境保全型生産技術(クリーナープロダクション)、環境汚染対策技術及び循環型社会の形成等に関する技術の途上国への移転に向けて積極的な活動を展開しました。

研修コースは新設3コースを含めて合計29コースになり、ODA予算削減の情勢にもかかわらず、昨年度に比較して4コース増加し、過去最大の実績を残すことができました。

この結果受け入れ研修員数は231名(昨年より34名増加)、参加国数は50ヶ国(昨年より10ヶ国減、減少の理由は国別、地域別コースの増加による。)に達しました。

2) 研修コース刷新状況

JICAは研修員受入れ事業の改革をめざし、途上国のニーズに対応した課題別のコースを厳選する方針のもと、既存コースのスクラップ&ビルドを強力に推進中です。

この結果3コースが今年度をもって終了することになり、平成18年度からは、時代のニーズを反映した、循環型社会の構築コースが新しく登場します。

3) JICAの改革とKITAの対応

平成15年10月、JICAの独立法人化に伴い、現場主義が打ち出されました。JICAは国内職員200名を海外事務所へシフトする計画を進めております。

このため九州国際センターの職員数も削減され、民間人材派遣会社からの雇用が増加しています。

この状況下、九州国際センターとKITAは効率的な運営を図るために討議を重ね、新たなマニュアルづくりを行いました。

平成18年度からは、このマニュアルに従って業務を推進します。

4) 研修成果のフォロー

平成17年はKITA創立25周年に当たっており、記念式典には帰国研修員をタイおよびフィリピンから各1名招聘し、パネリストとして研修成果を生かした帰国後の活動状況を一般市民に発表していただきました。いずれの発表も帰国研修員代表者にふさわしい充実した内容でした。

又、その前日にJICAのTVネットワークを通じてJICA本部にも報告し好評でした。なお、昨年にひきつづき、生産性向上実践技術コースの帰国研修員(コロ

ンビア、2001年終了)を招いて、本人が担当した建材用アスベストフリーの新ボードの開発及び生産性向上に関する活動成果について、先輩として研修員に講義

をしてもらい大変歓迎され、良い刺激を与えることができました。

技術協力

1) 韓国産業技術協力

(1) 第12回韓国中小企業技術者専門セミナー

<(財)日韓産業技術協力財団より受託>
今年度から研修内容を重点部分に絞り、期間を8週間から6週間に短縮し実施しました。

セミナーコース名	研修員	セミナー実施期間
金属加工と品質向上の技術	8名	8月22日~9月30日(40日間)
技術者のための生産性向上技術	8名	8月22日~9月30日(40日間)
中小企業管理者マネージメント基礎	6名	8月22日~9月30日(40日間)
設備の有効活用技術	7名	8月22日~9月30日(40日間)

(2) 韓国中堅企業技術者研修

<(財)韓国品質財団より受託>
(財)韓国品質財団から「日本に於ける温暖化防止対策への行政及び日本企業の取組みと実施例」について研修の要請があり、5月23日から3日間、研修員9名を受入れました。

2) ペルワジャスティール(マレーシア)への技術協力

<ペルワジャスティールより受託>
ペルワジャスティールは年間150万トンの粗鋼を電気炉で生産しています。

平成17年8月20日から6日間、電気炉工場のスラグ処理に関する操業の改善指導を行ないました。

3) 九州(日本)・中国産業技術交流への協力

第12回九州(日本)・中国産業技術協議会が、平成17年9月20日から6日間、瀋陽・大連で開催されました。

日本側代表としてKITAの活動状況を発表し、KITAの役割を多くの参加者に理解していただき、両国の信頼の絆を一層強めることができました。

4) ベトナムにおける工場公害対策を目的とした新規円借款案件の発掘と形成調査

<JBICより受託>
目的は、中小民間繊維工場の排水汚染状況及び製造工程を調査し、CP手法を導入した公害対策と生産コスト低減、品質向上を同時に達成できる方策を提案することです。

第一次調査団として藤本団長以下9名が、3月26日から2週間現地調査を行ないました。

5) エジプト国地域環境管理能力向上プロジェクトへの協力

<日本工営/JICAより受託>
アレキサンドリア市の企業の生産工程における環境管理能力を向上させるプロジェクトを、日本工営より受託しました。

6) 台湾との資源回収技術に関する交流への協力

交流協会からの委託により、平成17年10月31日から3日間、台北と高雄で、資源回収技術に関する交流を行ないました。

交流協会/中華経済研究院主催(2テーマ)の講演会(台北)
『北九州エコタウン事業』

『循環型社会構築への取組み/鉄鋼業の例』
エコタウンに関する情報交換(高雄/台南)

7) クウェート石油関連技術者への環境汚染防止技術研修

<アラビア石油/JETROより受託>

大気汚染防止技術研修(コースリーダー 田中)

期 間:平成17年11月28日~12月9日

参加者数:7名

水質汚濁防止技術研修(コースリーダー 金子)

期 間:平成18年1月16日~1月27日

参加者数:8名

8) 環境汚染防止に関するジャパンプログラム開発現地調査

<中東協力センター(JCCME)より受託>

JCCMEの職業教育・研修プログラム〔ジャパンプログラム(JP)〕に関連し、中東4カ国、21機関を訪問、人材開発支援に対するニーズの現地調査を、平成18年1月19日~1月31日に実施しました。

9) チェリャピンスク(ロシア)コンサル対象候補企業事前調査

<ロシア東欧貿易会(ROTOBO)/(財)社会経済生産性本部より受託>

チェリャピンスク州行政府から推薦を受けた企業の中から、総合的なコンサルテーション指導を実施する対象企業を選定するため、平成18年3月18日から9日間、専門家6名(KITA1名)が現地調査を行ないました。9社に対するヒアリングの結果、指導対象の1社を選定しました。

生産性協力センター

1) KITA/北九州メンテナンス技術研究会(KME)

平成17年度末現在のKME会員数は38社・2個人であり、17年度の活動内容は次のとおりです。

(1) 「KITA/KMEセミナー」の開催 <8講座実施>

本年度の「KMEセミナー」は、前年度と同じ8講座を実施しました。延べ受講者は、53社、81名と

なり、昨年度に比べて6名減少しました。

疲労・強度(4日) 腐食・防食(4日)

溶接技術(2日) トライボロジー(2日)

制御技術(3.5日) 油圧制御(1日)

工場内情報ネットワーク構築技術(1日)

設備診断技術(2日)

(2) 「予知保全研究部会」

平成14年秋に発足した「予知保全研究部会」は、引続き本年度も年間6回、隔月に開催しました。10社から14名の第一線技術者の参加者があり、指導講師の講義と質疑応答、出席者の事例発表及びディスカッション、意見交換を行いました。

(3) 「KITA/KME 総会・講演会」の開催

(平成17年7月22日)

「KME 講演会」の演題及び講師は次のとおりです。

演題 : 『企業のコンプライアンス(法令遵守)について』

演題 : 『静止機械のメンテナンスと診断技術者の役割』

演題 : 『最近の配管検査技術と三菱化学エンジニアリング(株)の配管管理の取り組み』

(4) 「KME 幹事会」の開催(平成18年3月8日)

環境協力センター

1) 環境関係国際研修

下記の個別コースを実施しました。

- (1) バンコク都・蔚山市個別研修コース(環境保全)
.....各1名<北九州市より受託>
- (2) 中東排水処理管理研修
.....20名<中東協力センターより受託>

2) 企画調査

- (1) インドネシア国スラバヤ市分別収集・堆肥化による廃棄物減量化支援事業
<環境再生保全機構地球環境基金助成事業>
スラバヤ市において、市民への堆肥化技術の普及と廃棄物問題への関心と理解の醸成を図りました。
- (2) フィリピン・メトロセブ地域での植林による人材育成事業
<イオン環境財団助成事業>
河川流域の植林を実施するとともに啓発セミナーを開催しました。
- (3) タイ・バンコク案件形成促進事業
<北九州市より受託>
有機廃棄物のバイオマス活用パイロット事業促進のため、ごみ組成や排出量などの情報収集、また廃棄物の減量化に向けた案件形成について調査・検討を行いました。
- (4) JBIC発掘型案件形成調査「ベトナムにおける工場公害対策を目的とした新規円借款案件の発掘と形成」
<JBICより受託>
ツーステップローンを活用した、CPによる公害対策を提言するため、繊維産業を対象に調査しています。また、CPの普及と市民啓発のためのセミナーを開催します。(平成18年度継続事業)
- (5) 廣野塾「青少年のための国際協力人材育成事業」
<KITA自主事業>
世界の環境問題や環境国際協力への関心・理解を深めるため、国際協力人材育成セミナーを開催しま

した。

- (6) モンゴル開発セクター調査事業
<双日総研より受託>
モンゴルにおけるCDM事業の可能性調査を実施しました。
 - (7) 地球環境市民大学校「環境NGOと市民の集い」
<環境再生保全機構地球環境基金より受託>
九州・沖縄地区の環境NGOの環境保全活動の促進・支援のため、活動成果発表会および研修を実施しました。
 - (8) 北九州エコタウン海外ビジネスモデル予備調査事業
<北九州市より受託>
中国を対象として、ニーズなどに関する調査を市内企業と連携して実施しました。
 - (9) 職業教育・研修プログラム開発事業
<中東協力センターより受託>
中東各国に対し、日本側研修教育機関が具体的なプログラムを作成・提案するため、ニーズや適合性を検証する調査を行いました。
 - (10) JICA 循環型社会コンテンツ開発事業
<JICAより受託>
JICA研修で使用する教材、研修指導要領等を作成しました。
 - (11) JICA 国別研修フォローアップ調査支援事業
<北九州市より受託>
- 3) 環境情報の収集・提供
- (1) 北九州市環境国際協力人材バンク拡充
<北九州市より受託>
 - (2) 北九州環境研究会(KISEC)の運営
<北九州環境研究会>
 - (3) 帰国研修員へのニューズレター
(Kitakyushu Environmentopia)の作成
<北九州環境研究会>

国際親善交流

1) 親善交流プログラム

今年も北九州で数ヶ月を過ごす長中期JICA24コース研修員を招いて親善交流プログラムを実施しました。市民と地元国際奉仕団体の皆さんの協力で提供する各種のプログラムは、遠来の研修員の心を和ませお互い

の理解を深める絶好の場として喜ばれています。

- (1) ホームビジット
多くのホストファミリーの親身のそして細やかな心遣いで129名の研修員のホームビジットが実現しました。北九州滞在中の心の拠りどころとしてだけで

なく、たくさんの方々が帰国後も友好的な関係を続けています。

(2) バスハイク

KITA主催の他にソロプチミスト北九州、ソロプチミスト北九州西のご支援を得て6回実施しました。148名の研修員が参加、日本の美しさ・歴史・文化に接し心が癒されると毎回好評です。

(3) 研修員歓迎パーティー“西日本工業倶楽部のタベ”

西日本工業倶楽部、八幡西ロータリークラブ、八幡南ロータリークラブから引き続きご支援をいただき、典雅な西洋館の見学、日本庭園での食事、日本館でのお茶会、最後はゲームに興じて楽しんでもらいま

した。129名の研修員が参加しました。

2) 英文生活情報誌 (Enjoyable Kitakyusyu) 提供

研修員の皆さんに北九州滞在期間を快適に過ごしていただくために、北九州の歴史、気候や生活情報を盛り込んだ英文生活情報誌を提供しています。

3) 記念アルバム贈呈

研修員一人ひとりに、研修中撮影の写真を記念アルバムにして閉講式の席上でCDファイルを添えて贈呈しました。

4) グリーティングカード制作・贈呈

帰国研修員2917名に事務局作成のグリーティングカードを送りました。

KITA 広報

パンフレットおよびホームページのリニューアルを行いました。ホームページは日本語版・英語版を設け、充実した内容へとタイムリーに更新しています。また、英語

版KITAニュースを年2回発行することに改めました。

これらは国内外へのKITAの情報発信源となり、今後の事業活動の展開に大きな力になると期待しています。

平成18年度事業計画

JICA 研修

1) 平成18年度の研修コースの実施予定

昨年度からの継続20コース、見直し再スタート1コース、新設3コース(“ASEAN・循環型社会の構築”4ヶ国12名、“アジア循環社会創造コース・中国(県)”中国8名、“アジア循環社会創造コース・ASEAN(県)”3ヶ国10名)合計24コースでスタートする予定です。

この結果研修参加予定人員は207名(昨年より24名減)、参加国数は約50カ国になる見通しです。

2) コース改廃、新設への対応

本年度のJICA予算は1,575億円、前年度比マイナス1.6%です。このように厳しい予算状況の中、今年改廃年限(3年または5年の倍数)及び予定期間満了に達するのは下記5コースです。

生産性向上実践技術 中・東欧産業環境対策
中・東欧地域エネルギー管理 ガーナ地場産業活

性化計画 ネパール廃棄物処理

現在受託規模の維持、拡大を目指してJICA九州のご協力を得て、途上国のニーズに対応したコースの開講に向けて鋭意努力中です。

3) 研修業務改善活動

国内研修及び帰国後のフォローアップの充実を目指して、来日する研修員に、各人の組織が直面している課題について、従来よりも具体的なレポートを提出させ、その課題解決のために実行可能なアクションプランをまとめ上げるよう、十分に指導致します。さらに帰国後の実施状況についてもレポートの提出を求めてフォローし、いわゆるPDCAのサイクルが機能するように研修成果を求めて活動する予定です。

実施状況をチェックしながら、必要に応じてTV会議の開催や、専門員の派遣による支援活動を展開します。

技術協力

1) 韓国産業技術協力

第13回韓国中小企業技術者専門セミナー

<(財)日韓産業技術協力財団より受託>

セミナーは昨年同様4コース、期間は40日間、定員8名で実施の予定です。

セミナーコース名	研修人員	セミナー実施期間
金属加工と品質向上の技術	8名	7月31日~9月8日(40日間)
技術者のための生産性向上技術	8名	7月31日~9月8日(40日間)
中小企業管理者マネージメント基礎	8名	7月31日~9月8日(40日間)
設備の有効活用技術	8名	7月31日~9月8日(40日間)

2) 中東向け環境保全技術研修計画

平成18年度は中東の石油関連技術者、環境行政関係者等への環境保全技術研修コースが大幅に増加し5コースになる予定です。

研修委託先は実績のあるアラビア石油/JETROと、新たに加わった中東協力センター(JCCME)です。

主な研修コース計画

番号	コース名	受託先機関等	実施回数	定員	コースリーダー	実施期日
1	クウェート石油技術者のための環境管理・保全技術(大気汚染防止)	アラビア石油 JETRO	2	8	田中伸昌	平成18年11/6~17
2	クウェート石油技術者のための環境管理・保全技術(水質汚濁防止)	アラビア石油 JETRO	3	8	田中伸昌	平成18年12/4~15
3	クウェート大学夏季研修	中東協力センター	1	10	金子敏保	平成18年8/1~10
4	クウェート水質汚濁防止技術	中東協力センター	1	10	藤本研一	平成18年11/20~12/7
5	クウェート大気汚染防止技術	中東協力センター	1	10	山口 勝	平成19年1/15~2/1

- 3) ベトナムにおける工場公害対策を目的とした新規円借款案件の発掘と形成調査 (JBICより受託)
平成18年3月26日~4月8日の間一次企業調査を行ないました。
調査した10社は、国有企業4社、半官半民企業4社(株式化推進中)および民間企業2社で、今後二次・三次調査を経て8月に最終報告の予定です。
- 4) エジプト国地域環境管理能力向上プロジェクトへの協力 (日本工営/JICAより受託)
KITA派遣者の担当する業務は、アレクサンドリア市

- の産業公害対策能力向上の一環として、生産工程改善指導の能力を向上させることです。平成18年度、19年度の2カ年、1ヶ月間の派遣を4回、合計4ヶ月の現地業務を計画しています。
- 5) 中国における鉄鋼スラグ処理事業展開への協力
製鉄所の蓄積スラグから、地金を回収し有効に活用することに関して、事業としての採算性を検証するとともに、この地金を活用することによって達成する省エネルギーを、現在のCDM事業プロジェクトとして認可される可能性の有無を調査・検討することにしました。

生産性協力センター

- 1) KITA/北九州メンテナンス技術研究会(KME)
好評の「KITA/KMEセミナー」の内容充実、「KITA/KME講演会」の開催、平成14年10月発足した「予知保全研究部会」の充実等を通じてKME会員各社の人材育成に寄与することを目指します。
- (1)「KITA/KMEセミナー」[8講座計画]
疲労・強度(4日) 腐食・防食(4日)
溶接技術(2日) トライボロジー(2日)
制御技術(3.5日) 油圧制御(1日)
工場内情報ネットワーク構築技術(1日)
設備診断技術(2日)
- (2)「KITA/KME総会」の開催 平成18年7月20日(木)
(3)総会終了後3講演会を開催 平成18年7月20日(木)
以下テーマと講演者
講演 : 『技能オリンピック全社大会』を通して『生きた技能』が伝承される
機高田工業所 メンテナンスサービスセンター 企画グループ
技能開発チーム 福田 紀夫氏

- 講演 : ダイキン工業(株)における
技能伝承の取り組み
ダイキン工業(株) 堺製作所 第一製造部 生産技術グループ
課長 村上 貴敏氏
講演 : 低速軸受け異常検知法及び
診断装置の開発
三菱化学(株) 黒崎事業所 設備技術部
技術担当マネージャー 橋本 和也氏
- (4) 予知保全研究部会の開催
本年度参加の14社20名のメンバーに対し2名の指導講師の指導のもと、隔月(年6回)、八幡東生涯学習センターで実施予定。
指導講師:(有)日本診断工学研究所
代表研究者 豊田 利夫氏
九工大 大学院生命体工学研究科
客員教授 安西 敏雄氏
- (5) 幹事会の開催:平成19年3月予定

環境協力センター

- 1) 環境関係国際研修
下記の個別コースを実施します。
(1) タイ・バンコク、ベトナム・ホーチミン
個別研修コース(環境保全).....各1名
<北九州市より受託>

- (2) 中東排水処理管理研修20名
<中東協力センターより受託>
(3) スリランカ河川モニタリング研修2名
<JICAより受託>

2) 企画調査

- (1) インドネシア国スラバヤ市分別収集・堆肥化による廃棄物減量化支援事業
 < 環境再生保全機構地球環境基金助成事業 >
 市民への堆肥化技術の普及と廃棄物問題への関心と理解の醸成を図ります。
- (2) フィリピン・メトロセブ地域での植林による人材育成事業
 < イオン環境財団助成事業 >
- (3) タイ・バンコク案件形成促進事業
 < 北九州市より受託 >
 廃棄物の減量化に向けた案件形成について調査を実施します。
- (4) JICA 草の根技術協力事業(草の根パートナー型)「スマラン市環境教育指導者育成事業」
 < JICA より受託 >
 環境教育の普及・促進のため、セミナーや研修の開催、指導者の育成、環境教育を継続的に実践する仕組みづくりを進めます。
- (5) 廣野塾「青少年のための国際協力人材育成事業」
 < 環境再生保全機構地球環境基金助成事業 >
- (6) 東アジア人材育成拠点形成事業
 < 北九州市より受託 >
 北九州市の人材育成機能強化のための提案や研修等を実施します。

- (7) 環境ビジネス促進事業 < 北九州市より受託 >
 市内企業の国際環境ビジネス促進のための支援策を検討します。
 - (8) JBIC 円借款中国・貴陽市下水道事業
 < NEC ファシリティーズより受託 >
 下水処理場の管理者・技術者を対象とした研修を行います。
 - (9) JBIC 提案型調査中国・昆明市下水道事業
 < 北九州市より受託 >
 下水道管理技術向上のため、専門家の派遣、現地セミナーの開催などを行います。
 - (10) JICA 循環型社会コンテンツ開発事業
 < JICA より受託 >
 - (11) 地球環境市民大学校「環境保全協働コーディネーター養成講座」
 < 環境再生保全機構地球環境基金より受託 >
 環境保全活動における人材を養成するための講座を開催します。
- 3) 環境情報の収集・提供
- (1) 北九州環境研究会 (KISEC) の運営
 < 北九州環境研究会 >
 - (2) 帰国研修員へのニューズレター (Kitakyushu Environmentopia) の作成
 < 北九州環境研究会 >

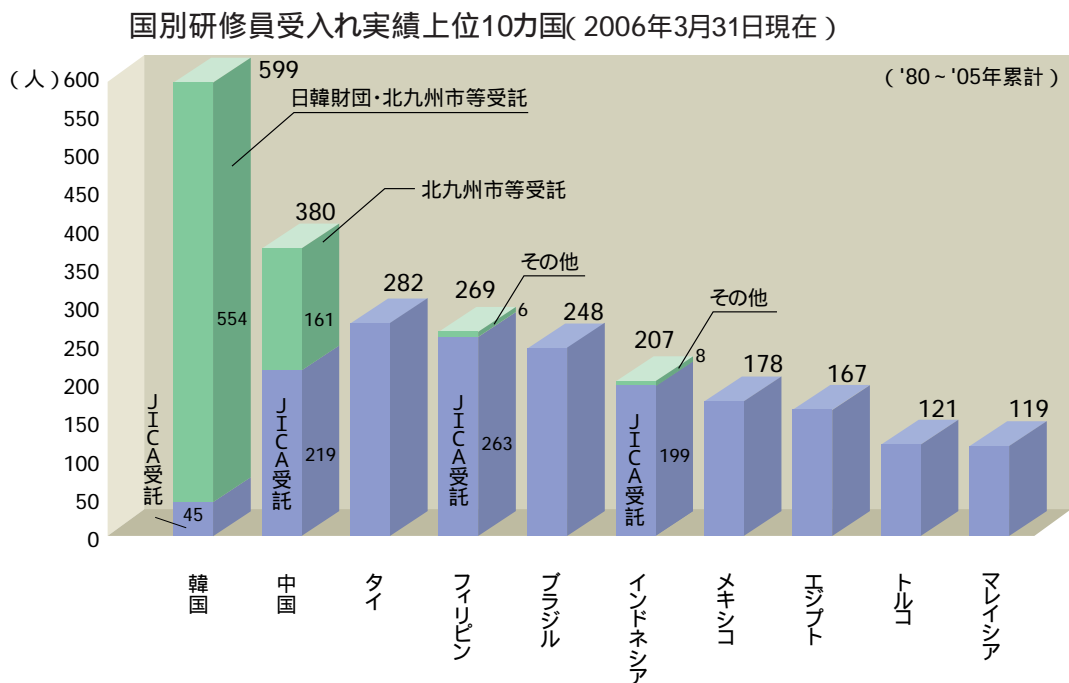
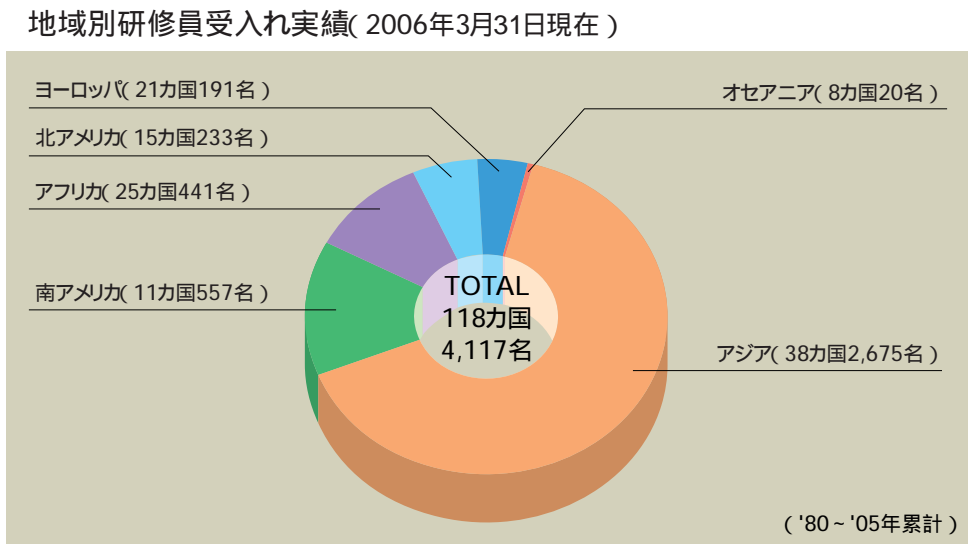
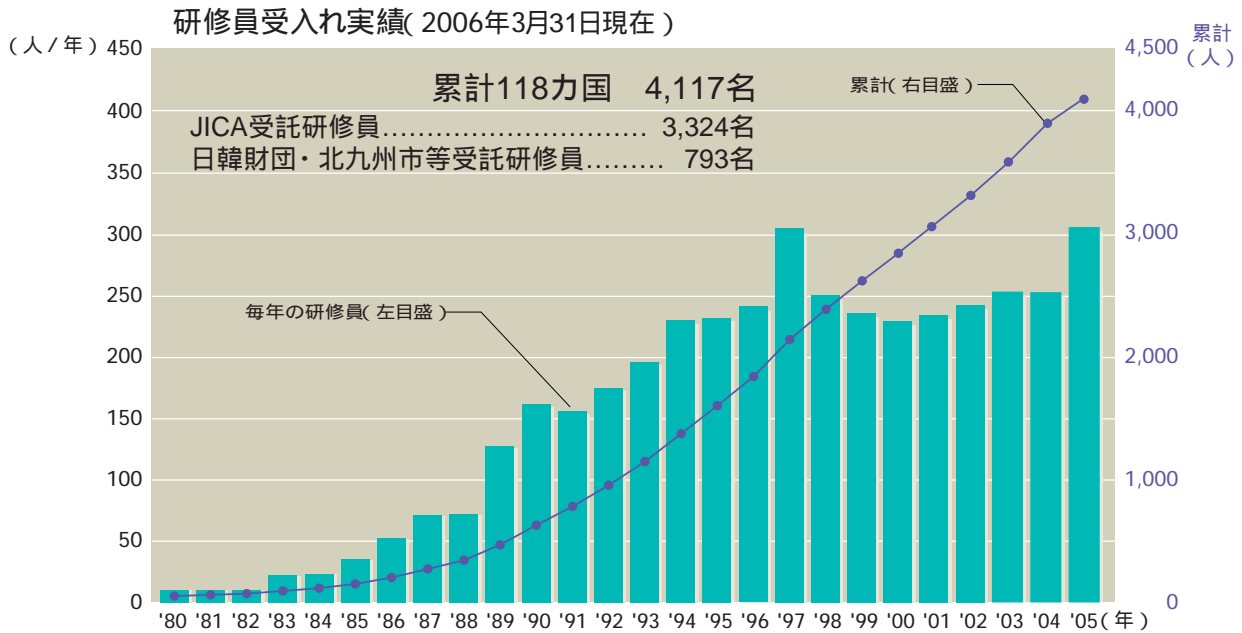
国際親善交流 - 多くの研修員の参加へ努力

1) 親善交流プログラム

- JICA 委託研修 24 コース中 21 コース、183 名を対象として実施を予定しています。1ヶ月未満の短期研修については対応が難しい面もありますが、多くの研修員が参加出来るよう努力します。
- (1) ホームビジット
 JICA 長期 14 コースを対象に実施予定。
 新規ホストファミリーの開拓にも力を入れていきます。
 - (2) バスハイク

- 国際ソロプチミスト北九州主催 (1 回)、国際ソロプチミスト北九州西/KITA 共催 (1 回)、KITA 主催 (3 回) 計 5 回実施予定。
- (3) 研修員歓迎パーティー“西日本工業倶楽部の夕べ”
 八幡西・八幡南両ロータリークラブ、西日本工業倶楽部、KITA の共催で年間 6 回を実施予定。
 - 2) 生活情報誌 (Enjoyable Kitakyushu) 改訂・配布
 - 3) 記念アルバム贈呈
 - 4) グリーティングカード作成・送付

海外研修員受入れ実績



最近6カ月間(平成18年1月～6月)にKITAで研修終了したコース名

計112名

	コース名	受託先機関等	KITAコースリーダー (サブリーダー)	KITA研修期間(月/日)	研修人数
A	鉄鋼業におけるクリーナープロダクション	JICA	木下健太郎 (三浦正克)	12/5～3/14	5
	生産性向上実践技術	JICA	堀川祥郎	11/14～3/1	8
	地場産業活性化計画(ガーナ)	JICA	三木義男	3/6～3/30	9
	生産性向上研修(エジプト)	JICA	永澤逸郎	3/1～3/24	4
B	クリーナープロダクションのための プラントメンテナンス技術	JICA	剣持武泰	1/23～5/17	6
	プラント用必須予備品の改善と製作	JICA	横山清	1/30～6/13	4
	クリーナープロダクションのための保安全管理	JICA	石川隆 (尾野春己)	1/23～4/25	6
	コンピューターによる機械制御高度システムの構築	JICA	谷口政隆	11/18～3/20	5
	プロセス工業におけるクリーナープロダクション	JICA	安藤雅夫 (安部哲夫)	2/20～5/17	6
	非破壊検査技術〔 〕	JICA	外山弘	2/27～6/16	6
	ブラジル・設備診断技術	JICA	植山高次 (西村明)	10/31～2/17	8
C	中・東欧地域産業環境対策	JICA	米澤昌	2/9～3/24	9
	アルジェリア・工業及び都市環境管理	JICA	城戸浩三	3/13～4/28	12
	クウェート石油技術者の水質汚濁防止技術	JETRO / アラビア石油㈱	金子敏保	1/16～1/27	8
D	エネルギー管理	JICA	矢頭昭治	3/13～5/26	8
	フィリピン・クリーナープロダクション振興	JICA	川合玄夫	2/23～3/23	8

A = 生産性向上 + CP B = プラントエンジ&メンテ + CP C = 環境保全 D = 環境マネジメント + CP

帰国研修員を講師として招聘(パート2)

JICA「生産性向上実践技術コース」では、昨年帰国研修員を講師として招聘し、帰国後にあげた成果を発表して貰い、研修員から大変好評を得ました。そこで本年も2001年度の研修員コロンビアのファン氏を講師として招きました。

ファン氏の働く会社は建材用のボードを製造していますが、当時政府の規制に先駆けてアスベストを用いない製品の製造に踏切っていました。この結果製品や工程に問題が生じ、製造コストが20から30%アップする問題が起きていました。彼のアクションプランは日本で学んだことを取り入れながら、この問題に対処することでした。

問題解決にあたってまず会社のマネジメントシステムの再構築を行いました。日本の方式にならってPDCAサイクル、不断の改善、顧客満足、品質優先意識、徹底したムダの除去、QCストーリー、5S、提案制度も組み込まれました。個別のテーマは数値目標を設定し、何時までに誰がやるかを明確にして推進されました。レイアウトの改善にはタイムスタディも利用され2年後には目標を達成しました。

最後に彼は日本の手法をphilosophy conceptを

良く理解して適用すれば必ず効果をあげることが出来る。大事なことは良くしようとする強い意志だと結んでくれました。

これとは別に昨年KITA25周年記念行事のパネリストとして2001年度の研修員タイのヴァルット氏が招かれ、成果を当コースでも発表していただきました。

まだ、彼らの他にも成果を上げている帰国研修員が何人もいます。彼らを招聘できれば素晴らしいことだと考えています。

(KITAコースリーダー 堀川祥郎記)



前列右から堀川コースリーダーとファンさん

東南アジア地域出張報告

東南アジア鉄鋼業の関心が高い技術課題は何か?そしてKITAの課題は?これを知るため5月14日から25日までフィリピンとインドネシアを訪問しました。

訪問先は 東南アジア鉄鋼連盟(SEAISI)の年次大会、 JICAフィリピンおよびインドネシア事務所、 Krakatau Steel(インドネシア)、 インドネシア工業省です。

SEAISIはタイ、インドネシア、マレーシア等のRegularメンバー国6ヶ国と日本、韓国等のSupportingメンバー国4ヶ国の計10ヶ国で構成され、今年で35周年になります。総会はCebuで開催され、3日間にわたり経済や技術の問題が熱心に討議されました。

JICAからの手紙の効果か、あるいは初めてのKITAからの訪問者であったためかKrakatau Steelでは大歓迎を受けました。DirectorateのMr Jatmiko(写真)をはじめとして14~5名の人が会議室で待機、歓迎の挨拶、会社紹介の後、『KITA/JICAへの要望』を述べるMeetingに移りました。また、JICAのアレンジによるイ

ンドネシア工業省とのMeetingも実り多いものでした。

今回の出張で得た情報を総括すると 省エネや環境問題をKITAで学べることは貴重 帰国した後の効果を考えると、会社の中堅層(40~50歳)を派遣したいが、滞在期間や語学に問題あり。 人選に当って必要な情報を提供して欲しいの、3点でありました。

今回の出張で多くの人を知り、この人脈を今後のKITA/JICAの活動に生かしたいと考えております。

(KITAコースリーダー
上野正勝記)

インドネシア企業訪問の
上野コースリーダー(左)



JICA九州研修員受入事業説明会開催



4月27日午後KIC大会議室において表記説明会が開催され、約50名の研修委託先出席者に対して、笠原所長他関係職員より、JICA改革プラン、研修改革の方向性、研修改善の取り組み状況、事例報告等従来にない充実したセミナーが実施されました。

JICAは平成15年、緒方理事長着任と同時に独立

行政法人になり、平成16年には改革第1弾として、現地の強化、本部組織の再編成が実施され、平成17年には第2弾として、現場主義推進のための国内事業3つの改革と国内機関の再編成方針が打ち出され、現在着々と進行しています。その中のひとつの柱として、研修員受け入れ事業の改革も取上げられ、研修コースのスクラップ&ビルドの強力な推進と、研修員帰国後のフォローアップ強化が焦点として取上げられています。また、育成方針についても従来の中核人材育成方針から課題解決型人材育成に向かっています。

私たちもこの方針に沿い、ニーズに対応した研修コースの発掘や、品質の向上に取り組まなければならないと思っています。

(KITA研修部 松本健三記)

チェリャピンスク(ロシア)
コンサル対象候補企業事前調査

(財)ロシア&NIS貿易会(ROTOBO)からの委託で、チェリャピンスク州行政府から推薦を受けた企業を訪問し、総合的なコンサルテーション指導を実施する対象企業を選定するため、他社専門家5名とともに、

平成18年3月18日(土)~26日(日)の期間、現地を訪問しました。

チェリャピンスクは100万都市の鉄鋼の町で旧ソ連時代は戦車の町として有名であり、軍需関連では様々

な周辺技術を有する企業が多数存在しています。

今回、調査した企業は9社で優良企業が数社含まれており、社長は23歳から45歳と若く有能な経営者が多いように見受けられました。

経営状況は会社ごとに大きく異なりますが、ロシア企業としては活気に溢れた日本の企業に学びたいという意欲を持っていました。特に、5Sと自主管理に興味を持つ企業が多いと感じました。しかしながら、ロシア企業と日本企業の習慣や言葉、規格の違いなど多くの困難が伴うことも理解できました。

その中から日本企業が経営改善に協力するにふさわしい企業とテーマを選択するために 経営管理能力 技術力 企画営業力 生産管理能力 人材力 財務力等の評価を個別に行いました。

特にKITAは技術力と生産管理について重点的な評価を担当、最終的にはROTOBOが参加コンサルタント6名の評価を総合し1社を選択、平成18年度の事

業として実行する計画であります。

現在のロシア経済は成長率が10%と高く、石油や天然ガスも豊富であり、大きく変わりつつあります。今後はロシアとの技術協力にも目を向けていくべきであると強く感じました。

(KITA 技術協力部 工藤和也記)

[(財)ロシア&NIS貿易会(ROTOBO)/(財)社会経済生産性本部より受託]



NEWS&REPORT

中東向け研修プログラム開発現地調査 (ジャンププログラム JP)

人材開発研修ニーズを調査するため、中東4国を訪問しました。

調査にあたり、(財)中東協力センター(JCCME)と海外向け研修実施機関の専門家で構成するワーキンググループ(WG)を立ち上げ、現地調査団(4名)を編成しました。また、WGは現地説明用に「生産性向上」、「管理能力向上」、「環境(大気、水質)」、「クリーナプロダクション(CP)」に関する22のプログラムを準備しました。その内、KITAは環境、CPを中心に6コースを提案しました。

各国の反応は次のとおりでした。

イラン: 鉱工業省、国営石油公社(NPC)等8ヶ所を

訪問しました。各組織ともJPに関心を示しましたが、NPC以外は研修実施には消極的でした。NPCからは生産性向上、管理能力向上に関するコースの照会がJCCMEにありました。

クウェート: 石油公社、クウェート大学(KU)等4ヶ所を訪問しました。訪問した全ての機関ともJPに大きな関

心を示しました。JCCME経由でKUから「サマープログラム」、石油公社から「水質汚染防止技術」、「大気汚染防止技術」の照会があり、KITAで実施予定です。バーレーン: 商工会議所を訪問しました。既に、JCCMEは同所で研修を実施していますが、KITAの得意分野についての研修ニーズはありませんでした。サウジアラビア: 商工会議所等3ヶ所を訪問しました。同国は若年層教育を重点政策に位置付けていますが、JPへのニーズは特になく、環境問題も顕在化していないので、環境関係研修に関心はありませんでした。

(KITA 技術協力部 藤本研一記)

[(財)中東協力センター(JCCME)より受託]



サウジアラビアでの会議



リヤド郊外にて

NEWS&REPORT

韓国・中小企業技術者専門セミナー オリエンテーション

毎年実施している「中小企業技術者専門セミナー」は、今年度で第13回目を迎えました。昨年と同様4コース、コース定員8名で実施の予定です。昨年からの導入しま

した「グループ討議」は、セミナーの研修成果を普遍化する上でも非常に有益でしたので、今年度も引き続き実施することとしました。

セミナーをより効果的に行なうため、7月3日から5日まで訪韓し、ソウル近郊の中小企業振興公団・安山研修院でコースオリエンテーションを実施する予定です。オリエンテーションでは参加者に対し、このセミナー研修の重点目標、研修中の留意事項、研修設備概要などを説明し、併せてコースリーダーからコース別に、研修の狙いと教科内容を説明し、各研修生の業務内容と業務上の問題点の把握を行なって、効果的なセミナーの実施に向けて備える所存です。

引き続き7月31日から9月8日までの40日間、北九州プリンスホテルに於いて「中小企業技術者専門セミナー」を行います。

セミナー終了後11月20日～24日の日程で、アクションプラン実施状況の発表・指導を行う成果発表会（フォロアップ事業）を韓国で実施し、今年度セミナーを締め括る予定です。

（KITA技術協力部 木下健太郎記）

〔(財)日韓産業技術協力財団、(財)韓日産業・技術協力財団より受託〕

NEWS&REPORT

ベトナムにおける工場公害対策を目的にした新規円借款案件の発掘と案件調査

ベトナムは高度経済成長を持続していますが、それに伴い公害が顕在化しました。特に、主産業の一つである繊維産業の排水に起因する水質汚染が深刻な問題になりつつあります。

本プロジェクトの目的は首都ハノイを流れるフォン川流域に位置する繊維工場を対象に、排水の汚染状況、排水処理の実態、製造工程の問題点を現地調査し、クリーナー・プロダクション（CP）手法を活用した具体的改善案を提案し、JBICのツー・ステップ・ローン（TSL）を利用した設備投資案件に結びつけることです。

調査団は団長の藤本以下9名（KITA4名、九州国際大学1名、染色専門家1名、三菱総研（金融専門家）3名）で構成され、3月26日～4月8日の間、第一次の現地調査を行ないました。

ベトナム側カウンターパートである工業省（MOI）を始めその他の政府機関で環境行政、工業政策、金融政策に関してヒアリングを行なうとともに、10社の繊維企業を訪問し調査しました。

訪問先の状況は以下の通りです。

殆どの会社で着色染色排水を無処理のまま排水溝に排出している。

日本の工場と比較して以下の点で染色技術が未

熟である。「水の消費量が多い」、「染色収率が低い」、「染料など化学品の使用量が多い」、「染色再現性が悪い」。

日本の工場と比較して、品質管理体制が不十分で、検査・試験機器も不足している。

CPの概念を活かした対策を実行すると製造コストおよび環境負荷が同時に低減できると確信できました。

5月14日からの第二次調査で、再度企業を訪問し、各社ごとの改善案、投資効果について議論を詰め、8月末までに最終報告書をまとめる予定です。

（KITA技術協力部 藤本研一記）

〔国際協力銀行（JBIC）より受託〕



NEWS&REPORT

バンコクでのバイオマスを活用した廃棄物適正処理



バンコクでのセミナーの様子

平成17年度、都市間協力促進事業の一環として上記テーマでの調査に関して、北九州市からの委託により調査を実施しました。

バンコクは急激な都市化と人口増加に伴う廃棄物処理の問題を抱えており、そのなかでまだあまり取り組まれていない有機性廃棄物、いわゆる生ゴミの分別と有効利用のパイロット事業を模索しました。

現地調査はバンコク環境局と協力して計3回実施し、うち1回は生ゴミの堆肥化技術を中心にバンコクでの

関係者や市民を招いてセミナーを実施しました。

パイロット事業については、家庭ゴミよりも、生鮮市場からまとめて排出される有機性廃棄物を原料とした、質の良い堆肥の製造をめざしたいとのことであり、バンコク北部の5つの区役所から積極的な参画の申し出があります。

また、堆肥製造技術の現地への技術移転をめざし、今年度はこの研修を実施するとともに、パイロット事業の詳細について検討を進める予定です。

(KITA 環境協力センター 指輪 勤記)
[北九州市より受託]

NEWS&REPORT

フィリピン・セブ地域における植林事業

KITAではH17年度よりイオン環境財団の助成を受け、フィリピン国セブ地域において植林ならびに環境啓発セミナーを実施しています。

去年は、7月末にボツアノン川上流域において、河川の護岸や水不足対策を主な目的として、現地の環境NGO(CLEAR)・ボランティアら総勢220名と共に1,100本の植樹をしました。今年5月、今年度事業の事前協議のためセブを訪れた際に、昨年の植林場所を視察しましたが、手入れが行き届き順調に育っていました。植林の効果を尋ねたところ、川魚が増え子どもたちが魚釣りを楽しめるようになったとのことでした。

今年は、9月にグアダルーペ川上流域においてフルーツの生る樹木を植林する予定です。コミュニティ管理のもとでの苗の育成・果実の販売を通じて、住民たちの貧困削減を目的に加えるとともに、同時開催の環境

セミナーでは、産官学の有識者が講演を行い、環境保護の大切さを啓発する予定です。小さな協力が将来大きな実りとなることを願います。

(KITA 環境協力センター 柴 郁代記)
[イオン環境財団より助成]



昨年の植林の様子

NEWS&REPORT

生ごみを堆肥化して資源に

KITA 方式コンポスト事業 in Indonesia

2004年、家庭から出る生ごみから良質な堆肥を製造する技術をスラバヤ市の環境NGO(PUSDAKOTA)に移転しました。

2005年はさらに、東ジャワ州最大の市場から出る生ごみを7日間で堆肥化する技術を開発し、「KITA方式コンポスト事業」のインドネシアでの普及が着々と進んでいます。

生ごみを最適に堆肥化するためには発酵菌(NM: Native Microorganism)が必要です。NMは特殊な菌ではなく、現地で容易に採取できる菌を培養した



PUSDAKOTAコンポストセンターとTHM(右上)

ものです。堆肥化を開始する際に一度培養しておけば十分です。このNMを利用したコンポスト容器による家庭での生ごみ堆肥化(Takakura Home Method (THM))は、スラバヤ市モデル地区内の約1,800世帯で行われており、収集ごみが半減しました。PUSDAKOTAはこの技術を用いて1,000世帯を対象とするコンポストセンターも運営しています。悪臭がなく、10日間でコンポストが完成します。

また、スラバヤ市美化局と市場管理局は、東ジャワ州最大の野菜市場の野菜くずを資源化するためのコンポストセンターを設立しました。買い物客の環境啓発用の施設としても活用しています。

現在、この取り組みの輪が拡大し、バリ島デンパサル市においても、THMが250世帯に普及し、PUSDAKOTAをモデルとしたコンポストセンターも稼働しています。

(KITA 環境協力センター 石田 哲也記)
[環境再生保全機構 / 地球環境基金から受託]

K I T A 研修コースの紹介

(目的とねらい)

JICAコース『ガーナ国地場産業活性化計画コース』

コースリーダー 三木 義男

本コースは、2004年度に「ガーナ国中小企業振興支援コース」としてスタートしました。

研修の目的は、ガーナ政府が進めている地方産業活性化計画を推進するための人材育成を狙いとしています。その実態を表現したコース名に2年目から変更しました。

地場産業活性化計画は、村落企業組合が運営するガーナ国版一村一品運動で、中小企業を育成し、工業化を進める国策です。JICA本部では、実行面のパイロットプロジェクトの支援をしており、それとセットで運営面の人材育成をしていくのが当コースです。

一方、KITAとしましては、企業経営に関わる研修コースは初めてであります。今回のコースにより新分野の支援が開けていくことになります。特に、貧困国の産業を振興するために必要な人材を育成する研修として今後、KITAの支援ジャンルの1つの柱になることを期待されています。

コースの日程は約1ヶ月と短期間ですが、カリキュラ

ムの内容は、マネジメント知識の修得、行政の役割と見学・視察でのベンチマーキングを3本柱としています。参加対象者は8名で、1年目は国の行政官、2年目は地方の行政官でした。また、2年目は、貿易産業省の副大臣も参加し、ガーナ国の当コースの期待の大きさを実感しました。3年目は、地方産業活性化の中核である村落企業組合の方が参加する予定です。

現在、JICAは、アフリカ諸国の貧困打開に向けた支援を強力に進めており、今後の拡大に対応すべき、当コースが水平展開されることを期待している状況です。



指導中の三木リーダー

『クウェート石油関連技術者の環境保全に関する研修』

コースリーダー 技術協力部 田中 伸昌、金子 敏保

クウェート国の官公庁の職員、石油会社の技術者を対象に、水質と大気汚染防止に関する研修2コースを、アラビア石油/JETROより受託し、2005年1月と11月、2006年1月に各2週間コースとして受入れ実施しました。本年度も継続して委託されることが期待されています。

クウェートの人々は、税制・福祉制度で優遇されている状況を勘案すれば、世界で一番経済的に豊かな国民かもしれませぬ。しかし、最近ではエネルギーの大量消費や使い捨て、公害物質の放散・放出などによる環境汚染に対する危機意識が高まっているようです。

彼らは石油関連の技術者ではありますが、幅広く産業および都市の環境問題への取組みに深く関心を示し、熱心に研修されたことに関係者一同感心しました。

講義および工場等での関連技術の見学を通して、研修員が特に印象に残った点または帰国後適用したい点を以下のようにコメントしてくれました。

北九州市公害克服の歴史
環境保全に関する法体系と行政の役割

特に公害課徴金制度、企業の廃棄物処理費負担制度

北九州エコタウンに見る環境産業の育成と循環型社会形成への貢献

訪問先各企業における環境保全への取組み

特にCPの導入、集塵・廃水処理設備と自主モニタリング、産業廃棄物処理技術

スーパーごみ発電とガス化溶融炉

本研修を通して“もったいない”の思想がお金持ちのクウェート国にも広く深く浸透することを切に願っています。訪問を受入れて下さった関係者の皆様に深く感謝いたします。



工場見学で説明を受ける研修員

KITAの国際親善交流

KITAのホストファミリーと研修員

北九州市小倉北区
八尋美智恵

研修員との出会いは 私の宝物

17年前、私は念願だった英語の勉強のため、米国へ渡りました。当時私はほとんど英語をしゃべれなく、そこには知人が一人も居なくて、文字通り右も左も分からない状態でした。

しかし、多くの方にとっても親切にしてくれました。勉強は想像以上に大変なものでしたが、アメリカでの生活を楽しむことができました。人種、言葉や文化の違いといった壁を、人の心の温かさが取り払ってくれたのです。

帰国後、米国で受けた様々な恩を、今度は異国から日本へ来られた方々にお返ししたいと思うようになりました。そんな時、KITAさんに出会いました。研修員のホームビジットのお手伝いをさせて頂くことにいたしました。

いったい研修員の方をどのようにしておもてなしをすればいいのか、思いあぐねておりましたが、難しく考えず、自分も一緒に楽しい時間をすごせばいいのではないかと思い、気負わず楽しく、をモットーにプログラム参加させて頂くことにしました。

ホームビジットプログラムに参加して、毎回感じるがあります。様々な国々や文化の方々との交流で、私はなんて多くのことを学ばせて貰っているのだろうということです。

時には、この恵まれた日本に生まれ育った幸運に気付かされることもあります。

私は微力ながらも何か人のお役に立てればと考えていましたが、逆に沢山の得難いものを受け取ってきたように感じます。

研修員の皆さんとの出会いは私の宝物です。



研修員とハイポーズ

鞍手郡小竹町
白石美津志

ホストファミリーを 楽しんで

KITAが何か知らない時に、偶然八幡駅で知り合ったブラジル人達と私的に交流しておりました。派遣先のエンジニアTさんからKITAのホストファミリーのことを紹介されたのが10年前。私と妻は、かつての移住先ブラジルで、多くの親切を受け、そのお返しにと、言葉をなるべく忘れないようにとの目的で、この活動に参加させていただくことにしました。

親切なお返しのもりが、98年暮れには餅つきの助人として、ブラジルのベドロさん、ジュリオさん、オルマンドさんが列車で我が家まで来てくれ、大いに助かりました。

さて、このプログラムに長く参加していると、時に貴重な出会いがあります。先のオルマンドさんの後輩であるレアンドロさんが昨年秋に我が家に来てくれました。その折り紹介されたKICに滞在中の大学院生マリナさんが、昔の勤務先の知り合いのお嬢さんであることがわかり、うれしい偶然が重なり大感激です。

様々な国の人達とのお付き合いの中で、バンラデッシュの青年エナエツトさんからは、国名の正しい読み方は、バンラディッシュということ。トルコのネディムさんからは、ギリシャと隣り合わせの美しい海をたくさん日本人に見てもらいたいそうです。ポリビアのグスタヴォさんは、コカの葉は腹痛を抑える薬であって我々には有用な物だが、悪意のある人々が、麻薬を作り北米に輸出する。その一面のみで、米国はコカの葉を悪の根元として我々を悪人扱いにしている。迷惑な話であると言っていました。

私たちは本やメディアなどからは得られない貴重な事を教えていただいています。



熊本城にて

野宮氏講演会「私の見た中国・現状と将来」



講演会の様子

平成18年4月24日(月)の午後、JICAの専門家として中国で鉄鋼業環境保護技術向上プロジェクトに参加しておられる野宮好堯氏をお招きした講演会が開催されました。

同氏は中国の環境分野での貢献により中国政府より国家友誼賞を授与されており「私の見た中国・現状と将来」と題されて行われた今回の講演会は、鉄鋼業だけでなく、経済、環境、エネルギー、資源等から今後の課題まで多岐にわたり最近の中国事情についての大変興味深いお話でした。

GDPは世界第5位であるが、購買力平価換算GDPは世界第2位であり、生産量世界一の品目が多数あること。急増する輸入が資源の価格高騰の原因になっていること。大規模な社会基盤整備が進んできていること。一方では大気汚染、酸性雨、砂漠化、経済格差等の様々な問題が生じていること等、生々しい中国の状況を理解することができ、今後の業務に極めて有益な内容でした。

(研修部 谷山隆一記)

EARTH講演会とエコタウン視察の実施



講演会の様子

EARTHでは会員の人材育成のため国内外での研修会を実施してきました。H17年度は10月のフィリピン研修に続いて2月に標記視察と講演会を開催しました。

エコタウン視察

廃木材プラスチックリサイクル施設(株エコウッド)
複合中核施設(北九州エコエナジー株)
非鉄金属リサイクル施設(日本磁力選鉱株)

講演会

講演 「適正技術と途上国の環境衛生」

講師:東洋大学大学院 教授 北脇秀敏氏

開発途上国における水供給・衛生施設整備など環境衛生分野の適正技術について、適正技術の必要性・留意点・今後の展望についてご講演いただきました。

講演 「環境問題と法的視点」

講師:小倉東総合法律事務所 弁護士 荒牧啓一氏

筑豊じん肺訴訟の経験談や、「環境権」「環境正義」に関連し技術者と法律家の役割などについて、ご講演いただきました。

参加者からは「日頃と違う視点での話は大変興味深かった」と前向きな感想が寄せられました。

(KITA環境協力センター 柴 郁代記)

〔北九州市より受託〕

「北九州地域産業活性化支援シンポジウム“2006”」開催のお知らせ

これまで隔年に開催してきました「西日本プラントエンジニアリングシンポジウム」は、今回より名称を標記のとおり変更して、本年10月に実施することとなりました。

このシンポジウムは、経済産業省及び北九州市の助成をいただき、地域関係諸団体の後援により開催します。

今回は販路拡大と競争力強化をテーマに、2日間にわたって、各方面の講師による講演とパネルディスカッション並びに関連企業見学を行い、地場企業の皆様の活力強化と人材育成のお役に立つことを目指しています。

広く各企業、諸団体の皆様多数のご参加を期待しております。

開催内容は下記のとおりです。

1. 日時:平成18年10月18日(水)、19日(木)
10時~17時
2. 場所:北九州国際会議場「国際会議室」
3. 内容:講演及びパネルディスカッション、工場見学(19日午後)
4. 参加:無料、申込必要
5. 参加申込及び問合せ:
(財)北九州国際技術協力協会 シンポジウム事務局(工藤、岩田)
Tel.093-662-7174 Fax.093-662-7177